



Weekly Report Rotary

福島中央RC

福島中央ロータリークラブ会報



事務局 〒960-8051 福島市首根田町4-22 TEL:024-526-7211 FAX:024-526-7212
E-mail:info@fukushimachuo-rc.com http:fukushimachuo-rc.com/

会長あいさつ

2024-25年度会長 佐藤 信雄



先週のお盆期間中は、皆様いかがお過ごしでしたか。

宮崎県沖地震がありその震源地が南海トラフ震源域内に存在することから巨大地震の発生の恐れや、東北地方への台風の上陸の心配があるということで気の休まることが無い日々をお過ごししたことと思います。そのような中でもパリオリンピックでは各々の選手の頑張りにより、海外での開催オリンピック

で最高のメダル数45個を獲得するなど、テレビに釘づけの各競技への熱中した日々を過ごしました。

さて、今日はテレビ番組への感想をお話したいと思います。

NHKの朝ドラ「虎に翼」の中で三淵嘉子（劇中では佐田寅子）の再婚相手の三淵乾太郎（劇中では星航一）が「総力戦研究所」に所属していたことに触れていました。「総力戦研究所」は初めて聞く事なので、直感的に脚色上の話だと思いましたが、気になったので調べてみたら実在した研究所でした。

総力戦研究所は1940年に内閣総理大臣直轄の研究所として設立されました。その目的は「国防の方針」と「経済活動の指針」について文官と武官それに民間から選ばれた若手エリートたちで議論を行うものでした。このことについては新聞でも報じられ存在自体は秘密ではなかった。

軍事・外交・経済など多方面にわたり具体的事項（兵器増産の見通しや食糧・燃料の自給度や運送経路、同盟国との連携など）について分析を行い、日米戦争を予測した。その結果を真珠湾攻撃の4か月前の1941年8月に当時の首相 近衛文麿・陸相 東條英機 以下政府・統帥部の関係者の前で報告された。

その報告内容は、「開戦後、初戦の勝利は見込まれるが、その後の推移は長期戦必至であり、その負担に日本の国力は耐えられない。戦争終末期にはソ連の参戦もあり敗北は避けられない。ゆえに戦争は不可能」という「日本必敗」の結論を導き出した。これは現実の日米戦争における戦局推移とほぼ合致するものであった（原爆の登場は想定外だった）。

これに対し東條は「総力戦研究所の報告は、あくまで机上の演習であり実際の戦争はこのような物では無い。現に日露戦争では、とても勝てるものとは思っていなかったが勝利した。戦いというものは計画通りにはいかない。意外裡なことが勝利につながる。この机上演習の結果を軽はずみに口外してはならない」

歴史的に見ても、このシミュレーションは精度の高いもので、まして日米開戦前にソ連の参戦を予測していたことは驚きであり、この報告を受けても名を開戦に踏み切った政府に驚いています。

2024年8月21日(水)

第6回(通算1593回)

福島県教育会館

「新会員スピーチ 石橋 真一会員」

例会次第

会場準備～会員増強委員会

- ◆開会点鐘 佐藤 信雄会長
- ◆ロータリーソング
「それこそロータリー」
ソングリーダー 佐藤 元彦会員
- ◆「ロータリーの目的」唱和
職業奉仕委員会 佐藤 龍史委員長
- ◆お客様並びに
来訪ロータリアンの紹介
・福島トヨタ自動車株式会社
取締役執行役員総務部長
川瀬 哲雄新会員
- ◆バギオ基金よりお礼状
芳賀 裕会員
- ◆新会員入会式 川瀬 哲雄会員
- ◆新会員あいさつ 川瀬 哲雄会員
- ◆会長あいさつ 佐藤 信雄会長
- ◆お食事をどうぞ



- ◆幹事報告 多田 憲司幹事
- ◆各委員会報告
・ロータリーの友8月号の紹介
雑誌委員会 桃井 三夫委員
- ・ニコニコBOX委員会報告
植木 博隆委員
- ◆新会員スピーチ 石橋 真一会員
- ◆閉会点鐘 佐藤 信雄会長

本日の出席率

会員数	43名
出席者総数	25名
うち出席免除会員出席	4/5名
出席率	61.9%



新会員スピーチ

福島民友新聞社 石橋 真一会員

【1】新聞の活用について

- 1、教育に新聞を(新聞を教材にして授業を展開する運動、NIE)
- 2、人材育成・社員教育に新聞活用のすすめ(ビジネスに新聞を、NIB)

【2】「見出し」をつけてみよう(実践編)

唐突ですが、皆さん新聞を読んでいますか？インターネットやスマートフォンなどの普及で、「ネットでニュースを見る」というケースがほとんどかと思います。新聞はもはや「古い」、はたまた「時代遅れ」なのでしょうか。ネットの台頭で、新聞は「オールドメディア」と言われることがありますが、弊社の会長によると、新聞は「老舗のメディア」と言い換えて表現しようとのこと。長い年月、時間を積み重ねた老舗だからこそ信頼され、支持される。新聞もそんな老舗の一つということです。ちなみに、福島民友新聞は2025年5月に創刊130年を迎えます。これも読者、県民の皆さんのおかげと感謝しています。

さて本日は、貴重な時間をいただき、新聞の活用をテーマに話をさせていただきます。新聞を習慣的に読んでいる人、家庭は、残念ながら減少傾向にあります。その大きな要因は人口減です。インターネットやスマートフォンなどの普及で便利な世の中になったことも一因かと思います。

新聞に限らず、本を含む活字文化への危機感が叫ばれて久しく、「活字離れ」が進んでいます。新聞業界では各社が新聞の活用について、様々な試みをしています。大きくは2つの取り組みがあります。一つはNIE(教育に新聞を活用する運動)、もう一つはNIB(ビジネスに新聞を活用する運動)です。

今年7月30日付の福島民友新聞朝刊で、文部科学省の全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)の結果が公表された、という記事が掲載されました。小学6年、中学3年を対象としたテストで、国語と算数・数学の2教科が基本です。県内公立校の平均正答率は小6の国語、算数、中3の国語、数学の全教科で全国平均を下回りました。

興味深いのは、児童生徒の新聞を読む頻度と全国学力テストの各教科の平均正答率を文部科学省が分析したところ、中3の国語以外は「ほぼ毎日」が最も高く、新聞を読む頻度が

下がるにつれて正答率も低くなる傾向がみられたということです。新聞を「ほとんど、または全く読まない」は、小中の国語、算数・数学の両方で正答率は最低でした。つまり、新聞を読む人ほど高得点という傾向が見られました。

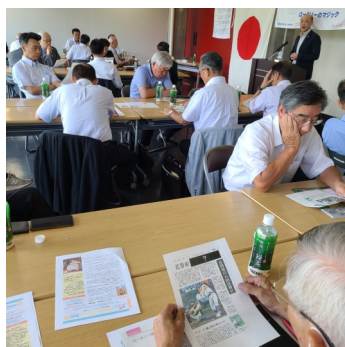
新聞などの「活字を読む」ということのメリットを分析した脳科学者もいます。脳科学研究の第一人者で、「脳力」を鍛えるパズル・ドリル関連書籍を監修し、「脳トレ」ブームを起こした東北大学加齢医学研究所の川島隆太所長です。2023年2月に福島民友新聞社が川島先生の講演会を開催しました。その際、川島先生は活字を読む時と、スマートフォンなどのデジタル機器を使う時の脳の働き方の違いを解説しました。新聞を読む人の脳活動のデータを見ると、脳の様々な場所が同時に動き出すそうです。「活字を読んで脳を使うことによって想像力を伸ばすことができ、脳の発達につながっていく」と解説していました。

新聞を読む、活字に触れることは能動的ということかと思えます。先ほど脳が活性化するという話をしましたが、新聞を読むことで想像力、思考力が働きます。一方、スマホなどは受動的、つまり一方的に情報を受け取ることで終わってしまい、脳は受け身のまま考えることを停止してしまうということかと思えます。デジタルは便利な面もありますが、リスクもあるということでしょう。バランス良く上手に活用することが大切かもしれません。



新聞を読む、活字を読む効果については、これまでもいろんな分野で分析がなされています。どう受け止めるかは皆さん次第かと思えます。ただ、受け止めるには知識だったり、信頼できる情報が必要になります。

続いて、新聞を読むことのビジネス面へのメリットについて話をします。企業では人材育成の観点から新聞の活用が注目されています。これは、社員個々人の能力を向上させるに



は正しい知識、情報が必要ということから、新聞はうってつけの教材ということなのでしょう。

日本新聞協会の「新聞活用のすすめ」という冊子の中で、ある企業の取り組みが紹介されていました。岐阜県の産業用機械部品メー

カー、岩田製作所では30歳以下の社員に「新聞手当」を創設したそうです。新聞を読み、記事の感想を月1回提出することを条件に月2,000円を支給しているそうです。その結果、社員同士の会話が増え、考える力、質問する力が養われ、会社の成長にもつながったという効果がみられたそうです。

新聞の活用事例は日本新聞協会からも紹介されています。興味のある方は「日本新聞協会新聞活用」などで検索いただければ幸いです。福島民友新聞社でも新聞の読み方や情報

の活用法などを紹介する企業向け講座を行っています。ご用意いただければ幸いです。

ロータリー会員皆さんの職場でも新聞を活用してみたいかがでしょうか。新聞を読むことの効果は、習慣化することが大切です。毎日続けていくことで、考える力、伝える力が

無理なく養われていくと考えます。結果として企業に不可欠な思考力、想像力、判断力のある社員を育てていくことに貢献すると思います。

最後に提案です。新入社員あるいは入社3年未満など若手社員を対象に3カ月、6カ月でもいいので、会社が新聞購読料を負担し、社員に新聞を読んでいただければいかがでしょう。社員教育、人材育成に新聞が貢献できるのであれば何よりです。可能ならば、福島民友新聞を購読いただければ幸いです。ご清聴ありがとうございました。

少々時間があります。貴重な機会をいただいたので、皆さんに新聞記者になったつもりで記事の見出しをつけていただこうかと思ひます。(2023年8月15日、福島民友新聞のスポーツ記事を配布)。配布した高校野球の記事に見出しをつ

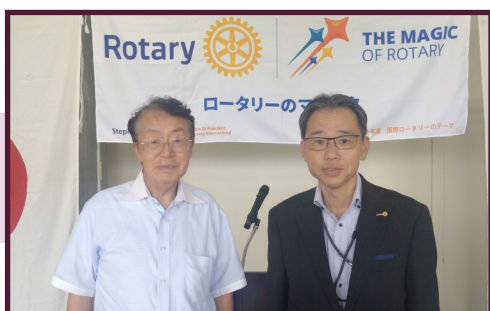
けてみて下さい。これが正解というものはありませんが、読者に試合の激闘が届くような見出しを考えてみて下さい。新聞社のレイアウト担当記者が限られた時間内で見出しをつける大変さ、おもしろさを少しでも理解いただければ、新聞への見方も変わるかもしれません。

本日はありがとうございました。



新会員紹介 川瀬 哲雄会員

入会しました福島トヨタ自動車株式会社の川瀬哲雄と申します。ロータリークラブの活動は初めてですので、ご指導のほどよろしくお願いします。



ロータリーの友の紹介 雑誌委員会 桃井 三夫委員

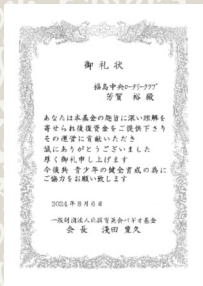


【横組みページ】

- P5 RI会長メッセージが記載。
難題を好機にと題し、もし私たちが「ロータリーのマジック」について記載。
- P6 「ロータリーとは」について。
既に周知の事実かとは思いますが、再度読み返すことで初心に帰り、再度ロータリーについて考える事ができると思う。
- P8 国内クラブの、新会員の勧誘活動等について記載。P12からは、「新しいスタイルのヒント」についての記事もあり、今後クラブが継続していくための、ヒントになると思う。

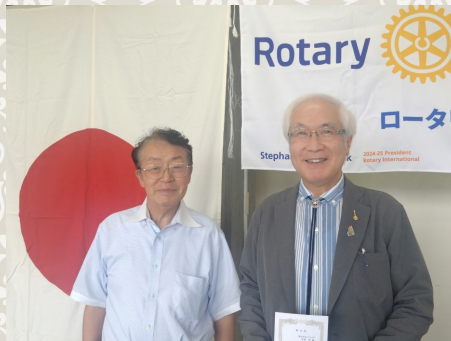
【縦組ページ】

- 縦P4 グラフィックデザイナーの、佐藤 卓さんの記事が掲載。
デザイナー目線から、デザイン(気遣い)について書かれていますので、是非、ご一読を。



バギオ基金より お礼状

芳賀 裕会員



幹事報告 多田 憲司幹事



- 1) RLI委員会より、RLI第3期～第6期の報告書が届いております。現在までの受講修了者一覧等もご確認いただけますので、ご覧になりたい方は事務局へお申し出ください。
- 2) 本日例会終了後、13:40～「第1回歴代会長会」を開催いたします。歴代会長の皆様は引き続きご参加をお願いいたします。
- 3) 8月25日(日)13:00～南東北総合卸センターにて「2024-25年度クラブ活性化ワークショップ」が開催されます。当クラブからは渡邊英世R財団委員長が出席の予定です。
- 4) 来週8月28日(水)16:00～佐平ビル9F会議室にて「8月度定例理事会」を開催いたします。夜間例会前の開催ですので1時間ほどを予定しております。理事役員の皆様はご出席をお願いいたします。
- 5) 同じく8月28日(水)の例会は、ウェディング エルティにて、18:30～納涼夜間家族例会となっております。ゲストにシャンソン歌手の紗羽しゅうこさんをお迎えいたします。ぜひご家族の皆様とご出席くださいますようお願いいたします。



閉会あいさつ

佐藤 信雄会長

石橋さん、新会員スピーチありがとうございました。
私も民友新聞を購読しており、先日の編集日記に「トランプ氏とイーロンマスク氏の対談」のその中で福島第一原発事故を念頭に「3千年は土地に戻れない」と発言した云々が掲載されておりました。誤った認識・言動に世界に影響のある人の発言だけに驚きと怒りを覚えました
例会終了までちょっとお時間がありますのでお話を続けます。

NHKの朝ドラマ「虎に翼」に出てくる三淵乾太郎(劇中では星航一)は福島県会津に深いつながりがあります。

戊辰戦争後、家老であった萱野長修は「主君には罪あらず。抗戦の罪は全て 自分にあり」と述べて

松平容保を命がけで庇い切腹しました。その萱野長修の実

弟が会津藩家臣の三淵隆衡で、その子が、初代最高裁長官の三淵忠彦です。

三淵忠彦は裁判官の地位が公務員と同視されないよう「裁判官報酬を相当の報酬」とし、かつ他の公務員とは別に決定されるよう望む旨の書簡を送り、裁判官の独立を意味する「裁判官の報酬等に関する法律」制定のきっかけを作りました。

この忠彦の子が「虎に翼」に出てくる三淵乾太郎です。
三淵乾太郎は、1941年、総力戦研究所第一期研究生として司法官では唯一選抜され入所。1942年に司法事務官に補され、1944年領事として北京に滞在した^[6]。戦後、高等裁判所裁判官及び最高裁判所調査官に着任した。その後、甲府地方裁判所所長、浦和地方裁判所所長なども務めた。

生沼祥子と結婚して4児を儲けたが1955年に死別。1956年、名古屋地方裁判所判事であった「虎に翼」の主人公となった和田嘉子と入籍し、嘉子長男の和田芳武の継父となった。

以上福島県に関係がありますのでお話し上げました。

■佐藤 信雄会長

川瀬 哲雄さん

これからよろしくお願いします。

ニコニコBOX委員会報告

植木 博隆委員



安藤 正道	紺野 信	央戸 宏行	渡邊 英世
石橋 真一	斎藤 高紀	菅谷 敏	
植木 博隆	坂本 和司	鈴木 努	
梅津 寿光	佐々木 臣樹	多田 憲司	
大出 隆秀	佐藤 和子	芳賀 裕	
鍛冶 輝雄	佐藤 信雄	桃井 三夫	
菅野 幸一	佐藤 元彦	箭内 一典	
熊坂 友好	佐藤 龍史	渡部九二五郎	

目標 200万円

本日の投入額 25件 31,000円

累計 191,000円